

伏見川・満願寺山コース

太古の浪漫に感嘆「山科のおう穴群と大桑層貝化石」

伏見川は、富樫山地の最高峰、倉ヶ岳（標高565.4m）を原流域とし、南部の丘陵地を深く切り込んで市街地に達します。竹林に覆われた川岸の中腹には2～3百年前の貝化石が点在し、時の深さを感じさせます。

山科神社 → おう穴群・大桑層貝化石 → 芋掘り藤五郎神社 →
九万坊大権現 → 斎地神社



●山科神社の樹林

富樫小学校前交差点から東方向に進みます。緩やかな上りが続き、しばらくして右手にひときわ高い山科神社の樹林がみえてきます。ケヤキやイチヨウ、スギなどの高木やツバキ、サカキなど低木が主で、特に参道右のケヤキは、高さ25m、幹周り4.5mもある巨木です。

●山科町かいわい

嶽の橋で佇めば、伏見川の心地よい水音が、上流へと誘います。山科町の静かな住宅地や、^{のどか}長閑な田園の中を進んでいくと、突然、^{うっそう}鬱蒼とした竹林があらわれます。仙人橋に辿り着きました。

●天然記念物

仙人橋付近の川の両岸に大小さまざまな丸い穴がみえます。小石が水の勢いにより回転し、つぼ状の丸く深い穴となったものです。これを「おう穴」といいます。おう穴群がある仙人橋付近では、川岸の中腹に白い帯のようなものがみられます。これが貝化石による大桑層で、今から2～3百万年前の日本海の状況を知るうえでとても貴重なものです。層の厚さは約100m。貝化石は、層の下部から産出し、巻貝、平貝など約200種近くも確認されています。これが「大桑層の貝化石」で「おう穴」とともに国の天然記念物に指定されています。

●芋掘り藤五郎神社

伏見川を左にみながら橋を渡り、急勾配の道を上ったところに、金沢の地名発祥伝説で知られる芋掘り藤五郎ゆかりの「芋掘り藤五郎神社」が建っています。境内には伝承で、藤五郎が松の枝に^{ふかん}鍬をかけて一服したとされる「鍬かけの松」があります。神社前からの俯瞰景観もよく、山科神社の社叢林が眺められます。

●丘陵地をめぐる

満願寺山へ向かって歩を進めます。窪1丁目地内、高台の外周道路を上ると住宅地の合間から市街地南部のまちなみが見え隠れします。満願寺山（標高176.6m）へは、九万坊大権現から長い石段の登りとなります。この丘陵地一帯は、モウソウチク林が広がり独特の景観をみせています。

●金沢平野が一望

満願寺山の山裾に位置する齋地神社。ヤブツバキやタブノキが多く生育しています。社殿前庭が市街地に向けて広がっていて、この高台からは金沢平野、遠くは日本海までが展望できます。